

【問題Ⅰ】

本問は、長文の評論を的確に理解し、簡潔に表現できるかどうかを問うものである。本文を比較的長く引用したが、これは、長文においても文章の構成を素早く読み取る能力が大学における学習において重要となることによるものである。なお本文は、英語が全世界的に用いられる言語となった（本文中の言葉を用いるなら、英語が〈普遍語〉となった）時代のなかで、ローカル言語としての日本語のあり方について考察する書籍から採ったものである。

問一 要約された主張（ここでは、グーテンベルクによる印刷機の発明から〈国語〉の形成に至る過程において資本主義が果たした役割についてのアンダーソンの説明）の具体的な内容を本文から読み取り、その主旨を的確に再現できるかどうかを問うている。複数の段階において資本主義が役割を果たしていたと説明されていることを読み取り、要約できているかどうかを鍵となる。

問二及び問三は、いずれも論理的思考能力を問う問題である。このうち問二は、傍線部で著者が示した序列を的確に読み取るとともに、本文中の記載も参照しながら選択肢に示された命題を理解し、その論理的整合性を判断することが求められる。また問三は、傍線部の記載から空欄に入る語を論理的に措定すること、逆にいうなら空欄に入れることができない語を排除していくことが求められる。

問四（1）は、「聖なる言語」についてのアンダーソンと著者との考え方の違いを本文中から的確に読み取ることが求められる。鍵となる文章は本文中に示されているが、それを読み取るとともに、適切に鍵となる概念を汲み取ることができているかもポイントとなる。

問四（2）は、前問で問うたアンダーソンの理解がどこから形成されたのかについての著者の理解を問うことにより、ある主張についての根拠を文章の内容から導出する能力があるかどうかを問うものである。その際、直接的な原因に言及するだけでなく、それがさらに何に由来するのかについても読み取ること、言い換えれば本文中から読み取ることのできる背景事情にまで踏み込むことが求められる。

【問題Ⅱ】

問題文は、生命科学の研究者が一般読者に向けて著したエッセイであり、専門知識を必要としない平易な文章から作者の意図を正確に読み取る力を確かめることを意図した問題である。大震災を経験して科学の在り方や科学技術者の在り方を問い直す本書の内容は、近代社会が、科学の有用性を追い求めるあまり、科学者も自然の中で生きる人間であることを忘れ、傲慢になってしまっている現状を説き、原点からの社会の再生の必要性を熱く提言している。大阪大学に入学しそれぞれの専門に進む学生にとっても、分野を超えて持つ

べき共通の基本姿勢を問う内容である。

問一 いずれの漢字も普通に社会生活で使用される常用漢字であり、一般読者向けのエッセイに用いられるレベルの漢字の書き取り能力を問うものである。

問二 大震災の直後に科学技術者がもらした「想定外」という言葉が多くの人々の怒りを買ったのはなぜかについて、その背景には、理性では制御できない自然と向き合う姿勢を忘れ何でも制御できると考えてしまう科学技術者の発想があることを、前後の文脈から読み取り簡潔に表現できるかを問う問題である。

問三 建築家の文章を引用した部分から「東京が失ってしまった豊かさ」の意味を限られた前後の文章と本文全体の文脈から読み取れているかを問う問題である。

問四 「私なりの答」とは何か、すなわち、有用性が優先された近代を問い直し、自然の中で生きる人間であることを忘れない科学者の在り方を提言することであるという、著者の意図を正確に読み取れているかを確認する問題である。

### 【問題Ⅲ】

出典は和歌を含む中世の歴史物語である。基本的な古文の文法、語彙が理解できていて、文脈読解の基礎能力が身についているかを問う問題である。

問一 基本的な古文単語・文法の理解を問う問題である。

問二 本文を正確に理解した上で適切に要約する能力を問う問題である。

問三 文脈を理解して動作主を確定し、正確に現代語訳できるかを問う問題である。

問四 該当部分の場面を理解して登場人物の心情を把握するとともに、基本的な古文単語の知識を踏まえて正確に現代語訳できるかを問う問題である。

問五 本文全体の主旨および文脈を踏まえ、比喩表現を含む贈答歌の内容を適切に表現できるかを問う問題である。